

「ひかりエコメイト」の小学校への出前授業を見学しました。



山口県周南市の三丘小学校にて開催された「ひかりエコメイト」による「環境出前授業」を、11月28日（火）に見学しました。

この日は、複式学級3・4年生を対象に、会長の藪さんによる「守ろうよ豊かな川と海を～島田川と瀬戸内海はつながっている～」をテーマとした授業が行われました。

まず初めに、授業の目的を知るための環境学習用の紙芝居（CG版）を視聴しました。この映像は、同団体の企画で周南公立大学（制作当時：徳山大学）の研究の一環として制作されたもので、先生や学生の皆さんも声の出演をされていました。

続いて、本題の講話に入ります。島田川の源流から河口に広がる虹ヶ浜海岸まで、そこに生息する生き物や植物など自然豊かな環境を知るとともに、そこに放置されたプラスチック類を含む「ごみ」の数々の現状説明に、児童の皆さんは見入り、ショックを受けていたようでした。また、それらのプラスチック類を放置すると環境にどのような影響があるかを学び、瀬戸内海に面する地域として美しい環境を守るためにどうすればよいかを、みんなで一緒に考えました。

①紙芝居（CG版）
「カッパの神様」プラスチックモンスターをやっつけよう

②パワーポイントを使った講話
「守ろうよ 豊かな川と海を」
～島田川と瀬戸内海はつながっている～

-----休憩&校庭へ移動-----

③校庭で マイクロプラスチック採取体験学習

④展示品の見学&質疑応答など

続いて、校庭に出て、虹ヶ浜の砂を使用したマイクロプラスチック（5mm以下のプラスチックの断片）の採取体験を行いました。砂は、講師が虹ヶ浜海岸から持ってきたものです。採取方法は、まず5mmの網のふるいにかけて、5mmより大きいプラスチックと燃えるもの、砂に分別し、プラスチックは袋に入れていきます。次に、2mmの網のふるいにかけて、同様に分別、プラスチックをふるいの中からピンセットで採取します。多くは、発砲スチロールが小さく砕けたものでした。児童の皆さんは、「あったあった！こんなに取れた！」と、班ごとに競争しあっていましたが、次第に「こんなにあるってことは良くないことだね、」と気づき始めます。



講師から、ここでクイズが出されました。「10cm×5cm×2cmの大きさのプラスチックは、2.5mmのマイクロプラスチックになると、何個分になるでしょうか？」児童の皆さんは、100個？1000個？と思いつきの数値を口にします。「答えは、6,400個！」と聞き、悲鳴を上げてびっくりしていました。講師から、プラスチックを上手に利用する方法として、①大切に使う、②できるだけ使わない、③使ったらきっちり始末する（放置しない）の3点を教えてもらいました。

最後に、講師が島田川周辺で採取したプラスチック類のゴミの展示を見たり、講師に質問したりして交流しました。

児童の皆さんは、自分たちが暮らしている地域を流れる川の現状を知るとあって、終始積極的且つ真剣に感想を述べたり話に聞き入ったりしている姿が印象的でした。



授業後には、「マイクロプラスチックのことを始めて聞いた。あれほど小さくなって環境に影響があることを知ってびっくりした」「今度虹ヶ浜海岸に行った時はごみを拾います」「ごみを出さないように気をつけようと思います」などの感想が寄せられるなど、次世代を担う子どもたちの心に響いた授業になったようです。また、身近に起こっている事例を通した授業は、郷土愛を育む機会にもなっていると感じました。（本郷）

*2003年に設立された「ひかりエコメイト」は、自然環境の保護・再生及び環境関連の事業を行い、その活動の場を通じて地域社会に貢献することを目的とされています。具体的には、島田川流域の森・里・川・海を結び豊かな流域づくりの推進事業に取り組み、自然観察会や清掃活動、海岸漂着プラスチックごみの削減啓発活動など、行政や学校、各種団体と連携し年間を通じて実施されています。